

## 執筆者一覧（掲載順）

田島奈都子	青梅市立美術館 学芸員
熊谷謙介	非文字資料研究センター研究員 神奈川大学外国語学部教授
阿盈娜	非文字資料研究センター 2018年度奨励研究採択者 神奈川大学大学院歴史民俗資料学研究科 博士後期課程
英  荷	非文字資料研究センター 2018年度奨励研究採択者 神奈川大学大学院歴史民俗資料学研究科 博士後期課程
太田原潤	非文字資料研究センター 2018年度奨励研究採択者 神奈川大学大学院歴史民俗資料学研究科 博士前期課程
小野寺佑紀	非文字資料研究センター 2018年度奨励研究採択者 神奈川大学大学院歴史民俗資料学研究科 博士後期課程
兪  鳴  奇	非文字資料研究センター 2018年度奨励研究採択者 神奈川大学大学院歴史民俗資料学研究科 博士後期課程

## ■編集後記

20号は7本の論文を掲載しています。研究論文は田島奈都子氏と熊谷謙介氏。田島論文は『非文字資料研究』18号で展開した「戦前期日本デザイン界における第一次世界大戦ポスターの受容と影響」の続編。満州事変以降を扱っています。熊谷論文はジャン・ベロー作品で「女性は都市の『遊歩者』となりえたのか?」と問いかけます。成果論文は5本。阿盈娜氏はモンゴルゲルの構造などから、モンゴル人の信仰や価値観を読み解きます。英荀氏は「内モンゴルにおけるチベット仏教寺院の復興とその社会的機能」。寺院復興の事例は内モンゴルの歴史と現在も伝えます。太田原潤氏は沖縄・久米島のウティダ石を通して文字暦導入以前のコヨミ認識を。小野寺佑紀氏は千葉県銚子市・茨城県神栖市波崎町の立正佼成会の事例で海難者供養の習俗を検討。兪鳴奇氏は中国海南島の伝統的な航海術を明らかにしています。

絵図を扱った2論文では、時代のなかでの意味を読み取るのか、時代のなかの人間の営みを読み解くのか、アプローチや関心の軸の違いに興味を持ちました。阿氏の「うしろ」は「北」というモンゴルの方向認識は、私自身ともクロスして関心を持ちました。復興寺院は、宗教活動の場だけでなく「同窓会」のような場という英氏の分析が印象に残りました。コヨミや海難、航海術などの事例や調査考察は暮らしのイメージがわきます。兪氏の「記録に頼っていても、安全な航海が保障されるわけではない」「航海経験で得た『勘』が大事」という結論は緻密な調査に基づくだけに面白い。読み応えのある論考が刺激を与えてくれると思います。(後田多)

## ■表紙説明

表紙・裏表紙とも、フランス19世紀末に活躍した画家、ジャン・ベローの都市風俗画を掲載している。表は《パリ、ル・アーヴル通り》(1881-1882)(ワシントン・ナショナル・ギャラリー蔵)である。人びとが交錯するパリの繁華街の光景であるが、前景でハット・ボックスを持ち、スカートの裾をたくし上げて歩く女性は、男性たちから格別の視線を投げかけられることもなく、さりげない形で街の中に存在している。背景には火事にあったデパート・プランタンの再建現場が見え、「普請中」の都市風景が写し出されている。

裏は《ラ・ベ通りのメゾン・パカンから帰る女性労働者たち》(1900年頃)(カルナヴァレ美術館蔵)である。メゾン・パカンは女性デザイナー、ジャンヌ・パカンによるブティックであり、アトリエから女性従業員たちが三々五々と帰路に向かう姿は、ベル・エポック期の働く女性たちを活写する視覚資料としても貴重である。背景に見えるのはヴァンドーム広場とその中心にそびえる円柱であり、現在でも高級服飾店が並び立つ界隈となっている。

両者とも「街の女」にかかわる伝統的なイメージから、〈新しい女〉というイメージへの展開が見られる。私たちが生きる21世紀、女性の社会進出は、現実においてもイメージにおいても果たして進んでいるのだろうか?(熊谷)

非文字資料研究 第20号

The Study of Nonwritten Cultural Materials No.20

---

発行日	2020年3月20日
編集・発行	神奈川県立総合文化センター 非文字資料研究センター 〒221-8686 横浜市神奈川区六角橋3-27-1 <a href="http://himoji.kanagawa-u.ac.jp/">http://himoji.kanagawa-u.ac.jp/</a>
印刷	共立速記印刷株式会社
雑誌コード	ISSN 2432-5481